

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名: 国際島嶼教育研究センター・准教授

氏名: 山本宗立

授業科目名	太平洋島嶼学特論
研修先(国・地域) 滞在地	ミクロネシア連邦チューク州・グアム
研修期間	平成28年9月4日～9月11日
<p>〔研修の成果〕</p> <p>ミクロネシア連邦チューク州ウェノ島では地元の市場を訪れて地場産の作物や魚介類について学び、近代的な設備を持つスーパーマーケットでは多種多様な輸入食品が多量に販売されていることを確認し、MIRAB経済の構造を理解した。また、Xavier High School を訪れ、第二次世界大戦中の資料を見学するとともに、ミクロネシア連邦の高校教育の現状を学んだ。そして、観光局やお土産を販売するホテル等を見学し、チューク州における観光産業の重要性を学んだ。</p> <p>ピス島では、2015年3月末にチューク州を襲った大型台風の影響がまだ残っていることを目の当たりにし、小さな島が災害に如何に脆弱かを学んだ。次に、小学校教員と教育について議論を行い、鹿児島の離島における問題点との類似点・相違点を学んだ。そして、伝統的な食事(パンノキ、芋類、バナナ、ココヤシ、魚介類)を島人と共食するとともに、魚介類の捕獲・採集を体験した。電気・ガス・水道のない小さな島で、半自給的生活を経験し、現代人が忘れかけている「生きるとは何か」について再考・熟考する機会を得た。人が「豊かな」暮らしを持続的に実現するために必要な、自然生態的基盤、政治経済的基盤、社会文化的基盤について理解を深めた。</p> <p>グアム島の南部を半周し、グアムの自然(植物・動物・地形等)や歴史(特に第二次世界大戦時の遺跡や博物館において)を学んだ。大学間学術交流協定のあるグアム大学を訪れ、教育学部の Yukiko Inoue-Smith 先生にミクロネシア地域における教育・文化・社会・キャリア形成・ジェンダーについて講義をおこなっていただき、2時間に亘り学生と活発な議論をしていただいた。また、ピス島出身で現在グアム島に住んでいる家族を訪れ、就労・教育機会等を求めてミクロネシア連邦からグアム島に移住した人々の生活を観察し、拡大家族の重要性を認識するとともに、MIRAB経済の構造を再度理解した。</p> <p>今年度の学生も非常に意欲的な学習姿勢であった。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>学生の安全面・健康面に全く問題がなく、講義も円滑におこなうことができた。グアム大学のYukiko先生からも学生に対して高評価を得ており、来年以降もこの講義を続けたいと考えている。今後の課題としては、台風等予期せぬ事態が生じた場合の対処法を予め用意しておく必要があること(今年度は問題なかった)、受講人数が増えた時に、もう一人の引率教員の予算をどうするか、である。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属:(学部(研究科)・学年)人文社会科学研究科
一年

氏 名: 丸山麻子

授業科目名	太平洋島嶼学特論
研修先(国・地域) 滞在地	グアム・ミクロネシア
研修期間	九月四日 ~ 九月十一日
〔研修を通じて得た成果〕 私はこの研修を通じて自分が問題意識を持っていたことについて実際に目に触れることができ考えさせられることが多かった。まず、海外援助である。日本も多くの国々に支援を行っているが、その実態を見たことはなくただインターネット等を通して実態を知るくらいで、どちらかという日本における教育では日本の援助は諸外国のために役に立っているという認識が強い環境にいた。しかし、今回ピス島で見た水道管の設備は、設備だけを完備しても、その後の管理まで考慮して導入しないと無駄になってしまうことが分かった。また、昔から途上国等への支援等にも関心があったが、そこでしばしば日本の学用品を寄付して欲しいという文言をみたが、その意味を理解することができた。元々モノがない地域では、形を教えるという一見、日本では普通な項目でも難しいことがわかった。さらに、自分が大学で学部時代に勉強したテーマについても現地の人とお話をする中で答えを得ることができた。外国の法律もある程度は日本にいても勉強することはできるが、小さな島の慣習まではなかなか文献で知ることは難しいので、質問することができ、ますます、世界各国の婚姻形式、遺産相続に関心を持つようになった。また、グアムにおいては、先方からダンスを教えてもらう機会があったが、私たち日本人はダンスを教えることができなかった。これは文化の違い、即ち頻繁にダンスを踊っている地元の方と、カラオケくらいでたまに踊るくらいの日本の違いなのかもしれないが、次行く時までには、簡単なダンスは踊れるようにして交流をさらに深めたいと思う。	
〔研修後の抱負〕 私は今勉強している分野について詳細に勉強するのはもちろんだが、広く色々な分野に通じたいと思う。たまたま、学部時代に勉強していた分野から質問をしたのだけれども、学部時代に勉強していたことが話題を広げるきっかけとなったので、広くアンテナをはっていききたい。さらに、今回見聞きした実態をそのままにするのではなく、自分が将来的にそれなりのポジションについたときに活かせるようにしたい。また、人に今回の研修について、語り、学用品を送る等していききたいと思う。	

(記入にあたっての注意) この報告書は今後の奨学金支給にあたっての参考となるものですので、詳細(複数頁可)に記載をお願いします。冊子として後に残るものなので記述の仕方にも注意して下さい。また、パソコンでの作成を原則とします。

学生海外研修報告書

鹿兒島大学長 殿

研修参加者

所属:(学部(研究科)・学年)人文社会研究科・1年

氏名: 付莎莎

授業科目名	太平洋島嶼学特論
研修先(国・地域) 滞在地	ミクロネシア、グアム
研修期間	2016/9/4 ~ 2016/9/11

〔研修を通じて得た成果〕

今回一緒に研修に参加した学生さんと過ごした時間、色々と考えさせられることが多く有意義であった。ピス島で過ごした二泊三日は、島の住民と過ごした時間は私にとって忘れられないものとなった。島の住民はチューク語が主でしたが、中学生くらいの年齢になると、英語も話せるようになるようでした。島の中には小学校がありますが、教育水準は高くなかった。無人島で山本先生と島の住民は魚、貝とカニを獲ってバーベキューした。島のお姉ちゃんは魚を切って、内臓を出し、私も体験した。たぶん南方の魚だから、色はいろいろがあつてとてもきれい。非常に海も澄んでいて、警戒心が薄いためかすぐ近くで魚を鑑賞することができた。ピスでどこでも貝殻を背負って生活する「ヤドカリ」を見える。ヤドカリにとって限定要因になっているのが食物などではなく、巣として使える殻であると考えられる証拠がいくつか知られている。そのために殻の奪い合いが起きることは珍しくなく、他個体が入った殻からその主を追い出し奪い取る行動も見られる。

ウェノ島で、ザビエル高等学校に行った。イエズス会の運営するビザエル高等学校は1952年にミクロネシアにできた最初の四年制の高校。教育水準は非常に高い、過去に多くの政治家などの著名人を輩出している。私たちはスタッフに学校の高台に連れてきた、見晴らしい素晴らしい。戦時中、旧日本軍が通信センターとして利用していた要塞のような頑丈な建物は連合軍の爆撃された壁の一部は「過去を忘れずに未来に引き継ごう」という思いの元、そのまま残されており、当時の爆撃の様子を物語っている。太平洋戦争中の1944年2月17日-18日になされたアメリカ軍機動部隊による日本軍の拠点チューク州のトラック島への航空攻撃である。ダウンタウンの海岸沿いに、日本人の慰霊碑「和」が建立されている。そこから見える海の底には、旧日本軍の艦船が多く眠っている。平和学の専門の私にとってとても悲しくて、複雑な気持ちを持っている。

グアムで過ごした三泊四日、天気が良くないからグアム島では南部を周り、島内の自然や文化を学んだ。伝統文化を残るチャモロ文化村、グアム大学などに行って、ココナッツの食べ方とグアム大学の基本情報を学ぶことができた。英語を活用するのは重要だ。一番印象的には太平洋戦争国立歴史博物館に行くこと。博物館の正面には、1艇のみ残った特殊潜航艇が展示されていて、館内で、展示パネルには日本語の説明の音声や映像がある。この博物館で、当時使用されていた武器などを見ることができて、勉強になった。

〔研修後の抱負〕

私は中国人として日本で暮らしていくが、島の問題、国際関係の問題に対して、グローバルな視野は必要不可欠になっており、現代社会を日本と中国だけでなく、世界的な視点でとらえ考えていくことが重要だと考える。ピス島とグアムでの生活を忘れず。ピス島から無人島までボートに乗って15分ほどたったころ「こんなに小さい私たちはこんなに広い海にいるのか」という考えが生まれた。われわれ日本人だけでなく、世界中の人々が決して忘れてはならない第二次世界大戦、太平洋戦争。太平洋戦争の歴史を、実際に使われた武器や、戦闘機などを目の当たりにすることで、平和について考える機会になる。これからも平和のために小さなことでもいいから、そこから行動できる人になってほしいということを周囲の人に伝えながら、平和学を勉強し続けている。

(記入にあたっての注意) この報告書は今後の奨学金支給にあたっての参考となるものですので、詳細(複数頁可)に記載をお願いします。冊子として後に残るものなので記述の仕方にも注意して下さい。また、パソコンでの作成を原則とします。

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属:(学部(研究科)・学年)農学研究科 1年

氏 名:小森 健太

授業科目名	H28年度 太平洋島嶼学特論
研修先(国・地域) 滞在地	チューク・グアム ミクロネシア
研修期間	2016年9月4日 ~ 2016年9月11日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>他国の方とコミュニケーションをとるため上で英語の大切さを改めて感じた。しかし英語が話せない人との会話でも、ボディーランゲージやコミュニティ内での生活習慣に従うことで適応していく上でお互いの仲が深めることが可能になった。またその大切さを再度理解出来たため、今後も自分が持つこれらの能力を大事にし、より伸ばしていきたいと思った。また過去の留学経験で得た英語力を英語を母国語としている国でどれくらい通じるかも目的の一つとしていたが、結構スムーズに話せることが出来たし、英語を話せたからこそ、ボディーランゲージでは得られない情報などを共有できたのは大きな収穫であったと思う。また、現在の日本のように現地では電気、ガス、水道などが無い地域で、果たして自分が生活出来ていけるのか不安であったが、実際に生活してみると思った以上に不便な暮らしではなく、充実した生活を送ることが出来たと思う。現在の日本のようにすべてが手に入る生活だけが幸せではなく、今回訪れたピス島の人々の方は人と人の繋がりが強固でいきいきと暮らしておりとても幸せであるように思えた。今までにない体験のおかげで、人が笑顔で生活するための価値観が異なることを理解しなければならぬと感じえた。また、一緒に研修に参加したメンバーは研究分野や年齢も異なっていたこともあり、人によっての考え方や価値観の違いを多く学ぶ良い機会でもあった。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>より多角的な視点で物事がみれるようになるように、様々な国々の人々との交流や初めてのことに進んで挑戦していきたいと思う。また更なる英語力の向上はもちろん、今後の留学でもコミュニケーションが上手いくようにベトナム語とインドネシア語の基礎会話の習得を目指そうと思う。また、これらの経験を活かした仕事に就きたいあるいは今後繋げていけるような仕事をしたいと思った。</p>	

(記入にあたっての注意) この報告書は今後の奨学金支給にあたっての参考となるものですので、詳細(複数頁可)に記載をお願いします。冊子として後に残るものなので記述の仕方にも注意して下さい。また、パソコンでの作成を原則とします。

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属:教育学研究科 修士2年

氏名: 土元 哲平

授業科目名	太平洋島嶼学特論
研修先(国・地域) 滞在地	ミクロネシア連邦(ウエノ島・ピス島)およびグアム
研修期間	2016/09/04~2016/09/11
〔研修を通じて得た成果〕 今回の研修を通じて、ミクロネシア連邦内でもインフラ格差(水道、電気、ガス等)が存在すること、日本とミクロネシアとの格差の現状を知ることができた。しかしながら、そのような格差は設備維持の問題などもあり、簡単に解決できるような問題ではない。ピス島での教育は、そのようなインフラの未整備に加えて、十分に教育的資源が整っているとはいえないことで、困難なものとなっている。複式学級であること、教材の不足や、教師の人数、財源の問題などがここでの教育を困難なものにしている。私たちがすぐに助けになることは難しいが、そうした現状でどのような教育が求められるのかを考えることで、本来の学校教育のあり方を再考する契機となった。ピス島のような教育の現状ほどではないが、日本の離島教育などにも同様の困難がある。このような理解を通して、日本の教育の実態を相対化して捉えられたことが一つの成果である。 また、現地の人々との交流を通して、「ミクロネシアの人々の文化」というレンズから「日本人としての私」を捉えることができた。また、共に研修に参加した友人らとの交流を通して、彼／彼女らへの見方や関わりも変化した。他者を知ることを通して、今まで気付かなかった「私」に気付くことができたという点で、自己理解が深まった。 最後に、グアム大学では、Yukiko Inoue 教授のお話を聴く機会に恵まれ、グアム大学教育学部と海外の大学院の現状について知ることができた。海外在住の日本人の教授という立場から興味深いお話をいただき、大変刺激になった。	
〔研修後の抱負〕 ピス島での学校の現状と、その問題点を検討する事が、日本の学校教育のあり方、そして私自身の実践を再考するための契機となった。私は現在、ある学校の非常勤講師として勤務しているが、今回の経験を生かし、そこで自身の実践のあり方を内省していくとともに、教育とは何かを問い続けていきたい。また、今回の研修を通して、より様々な角度から自己理解を深めたいと考えるようになった。普段の人間関係を大切にしながらも、もっと異質な他者との関わりを深め、広い視点から、自らの理解を深めたいと考えている。	

(記入にあたっての注意) この報告書は今後の奨学金支給にあたっての参考となるものですので、詳細(複数頁可)に記載をお願いします。冊子として後に残るものなので記述の仕方にも注意して下さい。また、パソコンでの作成を原則とします。

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属:(学部(研究科)・学年)教育学研究科・2年

氏名: 窪田 建

授業科目名	太平洋島嶼学特論
研修先(国・地域) 滞在地	9/4 ウェノ島 9/5・6 ピス島 9/7 ウェノ島 9/8・9・10 グアム島
研修期間	9月4日 ~ 9月11日

〔研修を通じて得た成果〕

1 生き方の多様性

現代日本の生活環境は、電気・水・ガスに不便することなく、生きていける。しかしピス島では電気やガスはなく、水は雨水や井戸水を使用する。飲料することができない。今回の研修では、特に真水のありがたさを感じた。自力で真水を得るということがこれほど難しいものなのか。それを簡単に得ることができる日本の社会は素晴らしいと。

では、ピス島の生活は苦しいのか。そうではない。日本の生活では、社会を維持するために、我々は仕事に多くの時間を割く。変化の激しい現代では、その変化についていくための知識、学力、教育が必要であり、これらが現代人の多忙化を招いている。また、SNSの普及によって、さらに人とのつながりが簡易化されたことによって生じるコミュニケーション障害や他者のために割く時間が増えている。ピス島にはこれらの時間がない。できることは、日本よりも圧倒的に少ないが、そのできることを楽しむ時間がある。これまでの自分を振り返る時間や、ピス島や研修仲間とゆっくり語る時間がある。ピス島に流れる心地よい豊かな時間は、今の日本にはない。どちらの生き方がいいとは一概に言えない。しかし、人間の生き方を語るうえで、どちらの生き方をも知っていることが、その豊かさに繋がると私は学んだ。

2 平和への祈り

ミクロネシアの島々は第2次世界大戦の舞台となっている。これは、日本の歴史教育ではあまり語られることはない。チューク島のザビエル高校には、戦争の悲惨さを物語る壁画がある。この壁画には「IN MEMORY OF ALL THOSE WHO DIED DO」と記され、ミクロネシアの人々の平和へのメッセージが込められている。日本の多くの学校では、修学旅行に戦争記念館や原爆記念館に行って、戦争の事実を知り、日本人の平和への思いが子供たちへ託される。この平和への思いは日本人もミクロネシアの人々も変わらないのである。

この壁画だけでなく、ミクロネシア周辺で沈没した船が描かれた地図や、グアムの戦争記念館にある資料は、日本の教育の資料として十分に活用が見込みがある。この資料があることで、日本人のみの平和の祈りだけでなく、ミクロネシア・グアムの人々の平和の祈りを授業の視点に含めることができる、これはグローバル化、国際平和の視点を子供たちに持たせるうえで、非常に意義のある資料となるだろう。

〔研修後の抱負〕

1 コミュニケーション能力の向上

初の海外旅行ということもあり、飛行機の搭乗、パスポートの提出の仕方など、わからなかったが、先生や大学院の仲間から見て学ぶことが多くあった。また、ミクロネシアの人々のあいさつやコミュニティの流儀があり、その参加することで、私自身どんどん「ミクロネシア人」になっている感覚を覚えた。コミュニケーションの流儀を知ることで、そのコミュニティの所属していくことができる。人とのつながりは財産であるので、今後も日本は勿論、海外の様々な地域を訪ね、多くの人達と語りたい。そして、語るためには英語力の向上が必要不可欠である。鹿児島大学には留学生が多いので、英語で話す機会を作ることが可能である。英語力を挙げ、自分の視野を広げたい。

2 子どもにどう還元するか

私は教員を目指している。教員として、この研修からの学びをどのように子供たちへ還元するか。それが私の課題である。今回得た戦争の資料は、歴史や平和学習、道徳において、十分有効活用できるだろう。ピス島での生活から、日本はいかに恵まれた国か子供たちに語るができるだろう。英語の大切さも伝えられる。しかし、もっと伝えられることはあって、それにまだ気づいていない可能性もある。私はストレートマスターなので、まだ実践者としての見えていないことがたくさんある。今後実践者として新たな気づきを得た際に、今回の研修の学びとどう結びつけることができるか。常に考える姿勢を持つことが重要となる。

(記入にあたっての注意) この報告書は今後の奨学金支給にあたっての参考となるものですので、詳細(複数頁可)に記載をお願いします。冊子として後に残るものなので記述の仕方にも注意して下さい。また、パソコンでの作成を原則とします。